

第1回 松本市森林再生実行会議 議事録(要約)

R3. 7. 27(火)18:00~20:30

市役所 大会議室

1 結果

- (1) 昨年同様、事務局の原案はない。
- (2) 会議のゴールは、市民ができると思えるようなレポートを作成する。
- (3) 提言の実行は市の事務局でなく、市民が主役。
- (4) 必要に応じてアドバイザーを招いて、話を聞く。
- (5) 委員各自のつながりや方法で市民、関係者等々の話を次回までにまとめてくる。
- (6) 次回会議は9月下旬から10月上旬で調整し、場所時間も市役所、平日以外とし
Y o u T u b eなどでライブ配信を検討する。

2 会議要約 ()内は発言者、敬称略

(市長あいさつ)

昨年度いただいた提言を実行に移していく、それはさらに、市民の皆様にも理解をし、参加をしていただく中で、松本市の森林の保全、活用、再生を進めていく。そのための会議として、今回新たに委員の皆様就任をお願いした。

森林資源の活用、林業の振興など様々な課題が山積している中で、短期的に取り組むべきもの、中長期的に検討していかなければならないもの、そうした多角的で複層的な問題について、専門家の視点と市民参加の観点から検討いただき、松本市の森林の保全、活用、再生に有効な対策を打ち出し、実行に移していきたいと考えている。

また、C o 2排出量ゼロに向けて、森林のあり方をめぐる議論も市民生活に直結し、今後重要性を増していくので、再生可能エネルギーの活用といった観点も視野に入れ、地球の持続的発展といった取組みを市民の皆様とともに進めていけたらと思っている。

(香山あいさつ)

昨年度の提言が実際に実行されなければ、提言のままで終わってしまうが、提言内容を具体的にどうしたら実行できるかを考えることがこの会議だと思う。森林のことは、日々動いていて、森林政策というのは実行されている。松本市民の生活から非常に離れてしまっている松本の森林を、提言に沿って再生を図っていくことはそう簡単なことではない。提言を具体的にどう実行できるのか段取りをとっていく会議になる。

また、具体的な政策というのは、予算がなければ動かないところもあるので、来年度予算についての具体的な進め方が出来ればと考える。

来年度以降、もっと広く市民が参加した形で、そこに向けてのステップアップになっていけば良いと思う。

(三木)

2018年に国連総会で決議された「小農(と農村で働く人々)に関する権利宣言」では、地域の人々は森林や農地の利用や管理について、意見を反映させる権利があるということを宣言しており、その点で昨年の松本市の森林再生に関する提言は、時代に即した提言であると思った。

市民と森林の関わりをどのように深めていけばよいか、一緒に考えていきたい。

(小山)

提言書では松本市の森林を再生し、最後はどんな姿にしたいのかが見えてこなかったが、実行するためにどのように考えていくかのロードマップを作る部分では協力ができると思う。皆さんと一緒に考えていきたい。

(渡辺)

誰かがやるのではなく、自分自身が森や木に関心を持って、市民の方々と一緒にこれからの松本市や木に関わることを一つ一つ身近に感じてもらえるようなことが出来れば良い。そのような話ができる場にしたい。

(香山)

今回のゴールをどこにするか、昨年同様、事務局の原案はない。この会議は、昨年度の提言をガイドラインとし、必要に応じてオブザーバー的、あるいはアドバイザー的な人をお呼びして、一緒に検討したいとも思っている。基本的には、4人の委員で進めるが、いろいろな外からの声、他の方々との意見交換を会議の隙間時間も使いながら進めていきたい。

(小山)

3人のお話を聞きながら思ったことは、この提言を実行していくのは事務局ではなく、市民の皆さんがやっていくということ。市民がやれることは何かを考えていくことが最初のキーワードになる。

(香山)

来年度には、市民レベルで市民会議が立ち上がっているだろうというイメージがある。

(渡辺)

参加しやすい市民参加型の部分でどうやったら関心を持ってもらえるか、そもそも森林を身近に感じてない人に対してどう関わりを持ってもらえるかが課題だと思う。

(三木)

提言の前半は松枯れ対策で、主に樹種転換を図っていくことが書かれているが、こ

これは林業のプロが関わってやることだと思う。その後の広葉樹主体の森林を市民がどのように利用し、あるいは管理していくのが、次の時代のテーマになってくる。

会議に関して、市民が上の方で決まったというような印象を持つことのないよう、エンジンのスターター的な役割を担うだけで、エンジン自体を動かすことは市民がやっていく形をとることが良いと思う。

(香山)

里山の松の後がどうなっていくのか、そこに市民がどう関わっていけるかを会議のスタート地点にしたほうが良いという気がする。会議は、市役所の会議室ではなく、街の中でやっているような形にしたい。

(三木)

鳥取県の智頭町は、智頭林業で有名であるが、町の施策の方向性を決めるのは役場ではなく、「百人委員会」をつくって、その部会で考えている。

また、上伊那の南箕輪村では、村民に村有林の大芝高原のアカマツ林で何をしたいか「あつまれ！大芝の森コンテスト」で募集している。関心を引くような面白いことをやらないと市民が森林を再生すると言う形にならないのではないかな。

(香山)

こんなことができたらいいなということは、みんながやるのか、それとも意思、関心が強い人がやるのか、どういった感じか。

(三木)

全く関心がない人がやってもなかなか難しいと思うが、一方で重要なことを決めるときは、ランダムに選んだ委員で話し合ったほうが良いと言われる。森林再生に関心のある方、関心はあるがなかなか行動できないというような人たちのほうが、最初は話しやすいのではないかなと思う。

(香山)

松本市に近い小山さんは、実際にいろいろな多くの市民活動とも関わっているが、どのように感じているか。

(小山)

松本市内で市民グループの皆さんと活動させていただいている。全く興味や関心がない人をどうするか、確かにそこが一番難しい。災害防止や林業振興だけだと狭い林業に陥ってしまうが、森林セラピーや教育といったところで、もっと引っかかる人がいるのではないかな。

(渡辺)

若い世代では、木や森について関心がない人が多いと思うが、松本はクラフトフェアや木の家具屋など芸術の部分でも幅広い街だと思う。キャンプやアウトドアを切り口に同世代に興味を持ってもらえるのではないかと思う。

(三木)

森林に一切興味がなくても、涼しいところが欲しい人などへは、森林の持つ多面的機能のある空間としてアプローチすれば、関心を持つ人もいるのではないか。

(香山)

森林は、市民があまり意識していないだけであって、市民は空気を吸って、松本の水を飲んでいて、必ず生活に影響している。

政策課題からではなく、一つ一つ目の前に見えているもの、自分が触れ合うものというところをピックアップしていく。その中で、どこが最初の切り口なのか、そこは物事を考える順番があると思う。

(小山)

市民と森林をどうつなげるか、意識を持ってもらうということを1回やりながら、そのうえでこの提言の実行に向けて、どうアクセルを踏み、どちらを向いていくのかというところで、入口を絞らないほうが安全かと思う。

(香山)

その作業は、2回目の会議までの宿題みたいになると思う。

(小山)

自分たちが、それぞれで聞いてくると良くも悪くも、自分たちの営業範囲の中からは意見が出てこない。

(香山)

そういう点でいうと、2回目の会議は、オープンで市民参加的なものでいいかもしれない。

(渡辺)

Z o o mやY o u T u b eであれば、興味のある方は参加しやすいと思う。

(香山)

もともと、市民と意見交換する場を設定したいという話はしていた。平日のこの時間帯で、ここまで傍聴に来る方はあまりいないが、ライブ配信されれば、かなりの方が視聴すると思う。

(三木)

松本市民あるいは松本市に関わる方が、森林に対してどのように考え、どのようなイメージを持たれているか、自分の耳で聞いてみたい。

(香山)

松本市では、市民と関わる企画を盛んに行っているが、多くの場合は、平日の昼間に公民館等で開催されるため、参加者の多くは、比較的高齢で男性ばかりという話もある。

今回の松枯れの樹幹注入の説明会も、各地域で開催されていたが、高齢者が中心であり、意見の幅が狭くなっている。

現役で仕事をしている人や、家事や育児を行う人にとっては、平日の昼間は忙しくなかなか参加することが厳しい。今の時代にあった会議の開催方法を検討していく必要がある。

(香山)

方法としては、松本市で既に取り入れているY o u T u b eライブや実際に街頭でインタビューをする方法が挙げられる。

(香山)

会議の進め方として、森林再生実行会議で話を詰め、市民の声を取り入れるのではなく、市民の声と提言書の内容で、どれだけ差があるのかを早い段階で確認し、協議していく進め方も一つの手段になる。

(三木)

森林や林業に興味や関心がない人たちの話を聞いて、こっちの話も聞いてもらって合意形成できれば、単なる松本っばい計画ができましたではなく、他でやってこなかった手法や、突き抜けたもので新しいものが作れるのではないかと。

(香山)

計画したものが実際に実行できるのか確認する必要があり、実際に森林林業に多く関わっている森林組合にも、この会議に出席いただき、意見を聞きたい。

また、市民側として、森林活動をしている方の意見も同じく聞きたい。

森林再生の問題に繋がってくる気がするが、ウッドショック（木材の供給が需要に追いつかないこと）が現在、建築関係で騒がれているが、こうした建築関係者も会議に呼んで、意見を聞きたい。

(小山)

例えば、家をリノベーションしたら木材を使ってくれるような人達で、少し遠いけれども木が嫌いではない人や、ギターを作っているところといった遠い人を呼ぶことで市民目線になれるのではないかと。

(香山)

会議に特定多数の市民が参加して、意見を言ってもらうこと必要だが、専門家でも結構遠い人に参加してもらおうと、市民から見て森林や林業といった距離が近くなるかもしれない。

(渡辺)

松本市は、個人事業主の横の繋がりがあがる街だと感じていて、ゲストハウスを運営している方々にもアクティブな方や顔が広く、幅広い世代とのつながりもある。そういうところと関わりを持つと面白いと思う。

(香山)

年5回の会議の中では、第2回目からはテーマを決め、それぞれ課題を持ち帰り、第2回目までの間にそれなりの成果を持って会議に臨むという形にしたい。このスタイルを意識したうえで次に何をやるのか話をしたい。

(小山)

提言の提言では無駄なので、一番初めに考えなければいけないのは、最後の第5回会議の後に出てくるレポートがどのような雰囲気のものなのかを整理したいと思う。

(三木)

提言を実行するためには、市民が関与できる項目は、市役所頼みにならず松本市民でこれをやろうと思わなくては、いつまでたっても森林再生はやっていけない。年度末には呼びかけられるような内容が必要なのではないか。

(渡辺)

上の人が何か決めたという形にはしたくない。市民の人々が興味関心を持って、やっぱり森や木はいいなど、思える人が一人でも多く増えるような形にしたい。

(香山)

市役所は上にいるのではなく、市民を下支えすることになる。政策は上から降りてくるように思えるが、政策はまさに市民の生活だと思う。森林再生、森林政策がテーマだから、それは何か決まったことが下りてくるとか、予算があるからやるということではなく、普通の人々がこれをやってみようかなというアイデアが盛り込まれているレポートにしたい。

(三木)

市民がこれならできると思えるような他市の事例や情報を入れることも必要だと思う。森林再生は大きなテーマで、どう市民が関与するのかという話になってしまう

ので、こういうことなら自分も出来ると思ってもらえるヒント集のようなものがついていると良いのではないか。

(香山)

松本の今の状況の中での市民の行動に役に立つものとして作られていくのが良い気がする。

樹幹注入して7年の間にやることがたくさんある。アイデアがあれば、松が枯れる、枯れないという問題から次のステージに乗り越えていけると思う。

専門家がちゃんと広葉樹林に再生すると言っても、自分が生きている間に使えないからピンとこない。楽しいことや、やれることがいろいろあるよという発信がすごく必要で、アイデア集的なものがあったら良いと思った。

次回のイメージは、どんな感じになってきますか。

(小山)

みんながこれやってみようと思えるメッセージか、呼びかけるメッセージを出して、キャッチコピーを考える。キャッチコピーに繋がっていくアイデア集みたいなものが並んでくるというイメージになる。

市民が自分事にするにはどうしていったら良いかを1回きちんと整理し、森林側の視点での課題の交通整理をしていく。

(香山)

まずは、いろいろな人の意見を集めるところから始めていきたい。その中で、市民の声を受け止める場を作り、市民が思っている森林再生、課題等を1回受け止めてみようというのが第2回の会議になる。Y o u T u b eライブのような形をとったとしても2時間の会議の中では限界があり工夫が必要だと思う。

(渡辺)

Y o u T u b eやZ o o mで市内の高校や大学を巻き込む形も面白いのではないかな。興味のある人にどうやって届けるのか考えていかななくてはいけない。

(香山)

松本市の知名度はあるが、松本市のホームページをどれだけの人が見ているのかそれは何とも言えない。非公式で我々がどんどん広めていけばいいのではないかなと思う。

(三木)

今までと同じでは、想定内の意見しか出ないため、委員として選出されたので、松本市民の声をある程度聞いたうえで、次回の会議に挑みたい。

(香山)

私は、市民というよりは、業界や行政寄りの方たち取材して、いろいろな意見を集めていきたい。

(渡辺)

私は、市内の飲食店やゲストハウスなどで、意見を集めていきたい。新しい意見を聞きに回ることは面白いと思う。

(小山)

私は、自身のSNSで繋がっている方や松本市以外の方、研究者仲間に意見を聞いていきたい。今出た意見の収集で、松本市の森林のイメージを一応、四方から聞き取れる気がする。

また、聞き取り方のフォーマットを揃えていきたい。

(香山)

会議は、5回しかないが、情報交換はいつでもできる。それぞれで外部に広げ、そこで得たことを、この会議に取り入れれば良いと思う。2回目の形が見えてきたので、日程も考えなければいけない。

(三木)

2回目は、今後進めていく中の基礎になる。2回目の開催前は取材や資料作成等の準備期間として少し時間を空けたい。2回目を10月、3回目を11月、4回目を12月に開催し、5回目を2月に開催する方法が一番無理なく進めていけるのではないかな。

(小山)

提案として、2回目の開催は平日の市役所ではなく、どこかの大きな会議室やイベント会場の空きスペースでも、面白いのではないかな。

(香山)

2回目の役割は、市民の繋がりを持っていることをアピールする部分があるので、多くの人が集まりやすい場所や土曜日をイメージすると面白いと思う。2回目の開催までに、事務局と相談し、いろいろと仕掛けていきたい。

今日やらなければいけない話が大体出来たが、他に話題はあるかな？

(三木)

伊那市では、伊那谷フォレストカレッジ事業をやっているが、短期間の募集で受講者が全国から200人位あった。松本市は全国で誰もが知っている街なので、そこで森林の面白い話題があると世の中も関心を持ってくれる。そこは自信を持って良いと思う。

(渡辺)

伊那谷フォレストカレッジに参加して木の話聞くのも面白かったが、普段、木と関わりのなかった人たちと話しができたのは、貴重な経験になった。

(香山)

森林再生に向かっていくプログラムとしても参考になり、この会議の一つの進め方にもなる。今の制約の中で、そういった勉強する機会をリモートで参加することも、面白いのではないかと思うし、日本国内へ波及する力が持てると思う。

(小岩井)

次回の会議の予定は9月下旬から10月上旬とし、委員の皆様の都合を確認しながら、場所と開催方法については香山さんと相談して決めていきたい。